

夢はアンコール!?

カンボジアJICA持続的自然資源

管理能力強化プロジェクトについて

海外・現場最前線

からのお便り

海外で活躍する林野庁職員の近況を
シリーズで報告します



JICAカンボジア国持続的自然資源管理能力
強化プロジェクトチーフアドバイザー
五関 一博



カンボジアが誇る世界文化遺産アンコールは、9世紀から15世紀までアンコール王朝の首都であった遺跡群で、王朝の滅亡後、森林に覆われ人に知られずいたものを、19世紀中ばにフランス人アンリ・ムオが密林から発見した説が流布されています(写真1)。この説には異論もあるようですが、世界文化遺産アンコール(約400km²)には今でも一定の森林が残されており、かつてのカンボジアが豊かな森林に覆われていたことは間違いありません。実際、1958〜1965年の森林面積は、1,323万ha、国土の約73%であったとされています。しかし、その後森林は年々減り続け、2018年時点では851万ha、国土の約47%まで減少しています。この要因としては、内戦、人口増加、農業生産のための土地の開発等が挙げられています(写真2)。

カンボジア政府としても、国際社会の支援を受けながら、森林資源を適切に管理するための努力を続けており、JICA(国際協力機構)では1999年の個別専門家の派遣を皮切りに支援を行ってきました。私がチーフアドバイザーを務める持続的自然資源管理能力強化プロジェクトは、これまでの支援を踏まえ、カンボジアにおける森林減少・劣化が抑制されることを目指し、保護林を所管する環境省及び生産林を所管する農林水産省森林局、さらに北部でラオスと国境を接するストウンレン州に対し



2 森林が消失した野生生物保護区



1 アンコール遺跡群の一つ、アンコール・トムの勝利の門



4 プロジェクトの活動地域



3 住民と活動案を検討

て、必要な政策や対策が実施できるよう国・地方政
府の職員の能力を強化しています(写真3、4)。

プロジェクトの開始時期は2020年の新型コ
ロナウイルス感染症の世界的な感染拡大と重なっ
たため、当初予定の6月から10月にずれ込みまし
たが、カンボジアの水際対策の徹底が功を奏してい
たために、プロジェクトの立ち上げは順調に進むと考
えていました。ところが2021年2月に大規模な
市中感染が発生し、4月には首都プノンペンがロッ
クダウンされる事態となりました(写真5、6)。こ
れにより環境省・農林水産省森林局の職員の在宅
勤務、地方への移動制限、短期専門家の渡航の見合
わせなどにより、国の政府職員への技術指導や、ス
トウントレン州で予定していた参加型森林管理等
の活動の実施が困難になってしまい、スケジュール
の大幅な見直しが必要となっています。

現在カンボジアでは新型コロナウイルス感染症
のワクチン接種率が100%近くとなり、昨年11月
から様々な制限が撤廃・緩和されていますので、プ
ロジェクトの2年目、3年目でなんとか遅れを挽回
し、予定されたプロジェクトの目標を達成すること
で、終了時には、カンボジアの皆様からアンコー
ルの拍手をいただけるよう、奮起しています。



6 新型コロナ対策で環境省内は週に1回消毒



5 ロックダウンで人影が消えたメコン川沿いの広場